

地域教材を活用した歴史学習の在り方

研究指導主事 廣岡 敏美

Hirooka Toshimi

要 旨

新学習指導要領に示されている「基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用」「伝統や文化に関する教育」「言語活動」等の社会科や地理歴史科の内容改訂のポイントを踏まえた学習を展開するために、地域教材をどのように活用するかについて考察した。

キーワード： 地域教材、基礎的・基本的な知識・技能、伝統や文化、言語活動

1 はじめに

新しい学習指導要領の総則において、「生きる力の育成」を目指して、「基礎的・基本的な知識・技能の習得と、これらを活用し課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成する」「主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育を充実させる」「道徳教育を強化し、伝統文化を尊重する」「すべての教科等において言語活動を充実させる」ことが示されている。

社会科及び地理歴史科では、「資料を読み取る力」、読み取った内容を「解釈し、判断する力」、それらに基づき考えたことを表現する「言語活動」を充実させるための課題設定、教材開発、授業展開が必要であるとともに、郷土や我が国の伝統や文化に関心を持ち、大切にしようとする態度をはぐくむ取組も必要である。

2 研究目的

奈良県内の史跡等の地域資源や歴史資料、文化財等を活用した教材や課題設定からどのような授業が構築できるかを研究する。

3 研究方法

- (1) 歴史学習の基礎的・基本的な知識と地域教材のかかわりについて考察する。
- (2) 地域教材を活用した歴史学習の展開について考察する。
- (3) 学習の評価について考察する。

4 研究内容

(1) 高札を題材にした「史料読み取り」学習

ア 年間計画上の位置付け（中学校社会科、高等学校地理歴史科）

江戸時代の社会、経済についての学習において高札の読み取りを行い、当時の人々のくらしについて考え、現在の私たちの生活と比較しつつ、江戸時代の社会の特色を理解する。

イ 展開例（資料1・資料2参照）

(7) 導 入

高札を示す

(イ) 課 題

- a 高札はどこに立てられたのかを調べる。
- b 高札に書かれている内容を読み解く。
- c 高札の内容から当時の農村の様子について調べる。
- d 高札が果たした役割について考察する。



「きりしたんの禁止」を記した高札



「百姓一揆の禁止」を記した高札

(ウ) 展 開

- a 史料の読解等は、地域の資料館等の地域史研究者等と連携して進めると効果的である。
- b 高札に書かれている内容（史料）を読み解く学習を体験することにより、教科書に記述されている基礎的・基本的な事項を習得することが史料の読解の前提となることを生徒に理解させることができる。その際、読解に取り組んでいる史料は教科書のどの部分の学習につながっているのかを、生徒に明確に示す必要がある。
- c 課題について調べた内容をまとめ、生徒による「瓦版」づくりや「江戸時代新聞」づくり等に取り組む。こういった学習活動によって、生徒は歴史を身近なものとしてとらえ、我が国の歴史や先人の働きについて関心をもつとともに、私たちのくらしの歴史的背景について理解を深めることができると思う。

(イ) ま と め

生徒が製作した瓦版や新聞等に基づいて発表する。

(オ) 評 価

- a 史料の読解とともに、基礎的・基本的事項の習得ができたか。
- b 読解した史料の内容について考えたことを表現する言語活動ができたか。
- c この学習を通して、我が国の歴史や郷土の歴史に関心をもつことができたか。

(2) 「国史跡 高取城」を題材にした主題学習

ア 年間計画での位置付け（中学校社会科、高等学校地理歴史科）

中世から近世への時代の移り変わりを概観する学習として、「国史跡 高取城」に関する主題学習を位置付ける。

イ 展開例

(7) 導入

- a 高取城跡の現在の様子（写真等）
- b 生涯学習番組「たのしい奈良の歴史」シリーズ「中世の大和^{やまと}武士」を視聴。中世の大和の姿から日本史の大きな流れを読み取る。（資料3参照）



国史跡高取城 太鼓御楼跡

(1) 課題

- a いつ、だれがどのような理由からこの場所に城を築いたかについて調べる。
- b 城郭の種類と変遷について調べる。
- c 高取城について調べたことをもとにして、中世から近世への時代の移り変わりについて説明する。
- d 現在、高取城はどのように活用されているのかを調べる。
- e その他、自分が感じた疑問を大切に、追究する。

(7) 展開

- a 参考資料として『高取町史』が適切である。
- b 現地学習等は、地域の資料館等の地域史研究者等と連携して進めると効果的である。
- c 視聴覚教材を活用することで、理解を深めることができる。
- d 年表づくり、地図づくり



国史跡高取城 本丸天守台跡

(1) まとめ

生徒が製作した年表や地図等に基づいて発表する。

(1) 評価

- a 課題の追究とともに、基礎的・基本的事項の習得ができたか。
- b 調べたことを解釈し、それに基づいて考えたことを表現する言語活動ができたか。
- c この学習を通して、郷土の歴史や文化、伝統行事等に関心をもつことができたか。

5 研究結果と考察

「平成20年度全国学力・学習状況調査」の結果を見ると、小学校、中学校のいずれにおいても、国語や算数（数学）の授業の内容がよく分かると思う子どもの方が正答率が高い傾向が強く見られる。よく分かる授業は生徒の学習意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度の育成につながる。このことは国語や算数・数学だけに限らず、どの教科・科目にも当てはまることである。地理歴史科や社会科においても、「これだけ覚えればよい」という暗記強要型の授業を見直し、この全国学力・学習状況調査の結果を重く受け止め、授業改善をさらに進めていく必要がある。

私たちの住む奈良県は、世界文化遺産、国宝、重要文化財、史跡をはじめとする「地域資源」の宝庫である。これらの豊富な地域資源を教材として掘り起こし、身近な教材から大きな時代の流れをとらえるという手法や、資料を読み取り、その内容を解釈し、判断して、それらに基づき考えたことを表現するという方法で歴史学習を進めることが、生徒の学習意欲を高めると

ともに、郷土奈良県に誇りと愛着をもち、郷土の発展に参画しようとする意欲をもたせることにつながると考える。

6 今後の課題

本県教育委員会には、昭和48年より制作してきた歴史番組の貴重な映像が数多くある。今後これらを活用し、地域教材を豊かにしていく取組とともに、生徒が自分の郷土の情報を発信する力を伸ばす教材開発や授業研究が必要であると考えている。

参考文献

- (1) 和田萃、安田次郎、幡鎌一弘、谷山正道、山上豊(2003)『県史〈29〉奈良県の歴史(新版)』山川出版社
- (2) 五條市史調査委員会(1958)『五條市史』五條市史刊行会
- (3) 廣岡祐渉(2008)『大鳥山明西寺史』自照社出版
- (4) 朝治武(1998)「高札の考察－展示をみるために－」『高札 支配と自治の最前線』大阪人権博物館図録p. 13－20.
- (5) 田谷博吉(1963)『近世銀座の研究』吉川弘文館
- (6) 大阪商業大学商業史博物館(2001)『近世の通貨展－庶民の金銭感覚－』大阪商業大学商業史博物館(平成13年度企画展図録)
- (7) 高取町史編纂委員会事務局(1992)『高取町史』高取町教育委員会
- (8) 奈良県教育委員会生涯学習課(1998)生涯学習番組「たのしい奈良の歴史」シリーズ「中世の大和武士^{やまとざむらい}」
- (9) 奈良産業大学 高取城CG再現プロジェクト
<http://www.nara-su.ac.jp/archives/takatori/>

<資料1>

高札を題材にした「史料読み取り」学習（事例1）

ねらい (1) 高札を題材にした「史料読み取り学習」を通して、近世の学習における基礎的・基本的な知識、技能を習得する。

(2) 読解した史料の内容について考えたことを表現する。

高札に見られるキーワード


キーワード①	きりしたん宗門
キーワード②	はてれん いるまん
キーワード③	名主 五人組
キーワード④	奉行
キーワード⑤	正徳元年



右之趣仰出 条堅可相守者也	正徳元年五月 日 奉行	かくし置他所より あらはるにおゐてハ其所之名主併五人組 まて一類ともに可被行罪科者也	右之通下さるへしたとひ同宿宗門之内たり といふも申出る品により銀五百枚下さるへ し 同宿併宗門の訴人 銀百枚 立ちかへり者の訴人 同 断 いるまんの訴人 銀三百枚 はてれんの訴人 銀五百枚 御ほうひとして 成者有之ハ申出へし きりしたん宗門ハ累年御禁制たり自然不審	定
---------------	----------------	--	---	---

※この学習は、江戸幕府の「幕政の安定」についての学習の後（「正徳の治」の学習完了後）に実施する。

	学習内容	学習活動	留意点	評価
導入	この写真を見て気付くことを答えさせる。		広範囲を映した写真から、徐々に高札に焦点を当てていき、ここが高札場であったことを写真から読み取らせる。	興味や関心をもって授業に参加しようとしているか。
	(1) これは江戸時代の高札場の様子である。	説明を聞く。		

展	(2) 高札とはどのようなものか。	高札の実物(または複製)を見て、感想を言い合う。		
開	(3) 高札には何が書かれているか。 <キーワード> ① きりしたん宗門 ② はてれん いるまん ③ 名主 五人組 ④ 奉行 ⑤ 正徳元年 ①、②：キリスト教伝来と織豊政権及び江戸幕府の対キリスト教政策及び宗教政策 ③：江戸時代の農村組織 ④：江戸幕府の行政組織	 キーワード①～④について説明する。(発表) 内容を読み解く。	既習事項が習得できているかの確認をする。 現代語に訳す等、生徒の読解を支援する。	基礎的・基本的知識を理解しているか。 基礎的・基本的知識を活用できるか。
	(4) 寛文元(1661)年6月に、この高札を含む5面の高札が同時に発せられ、その後、5面の高札発布が慣例となった。	説明を聞く。		
	(5) この高札(キリシタン札)の果たした役割・・・莫大な懸賞金が民衆の関心を引き、高札は強く意識されるようになった。	バテレンの訴人やイルマンの訴人への莫大な報償金を掲げた理由について考える。	訴人への報償金に注目させ、その貨幣価値を知らせる。法治主義によって幕政を安定させようとした点に気づかせる。	自分の考えを端的に表現できるか。
ま	江戸幕府は政治の安定を図るため、武断政治から文治政治へと転換していった。今回の学習において読み解いた高札からその様子を窺うことができる。武力によらず法による支配を進める江戸幕府にとって高札の意義は、法の周知徹底、基本法の強調、遵法精神の涵養、告訴の奨励であった。 次回の予告。			

※次回の学習として、江戸幕府の法とその発布時期を整理、分析する学習や、今回の学習でふれなかった「正徳元年」(キーワード⑤)にこの高札が立てられた理由を追究する学習等の展開が考えられる。なお、5面の高札とは忠孝・キリシタン・毒薬・駄賃・火付の高札のことで、寛文元(1661)年、延宝2(1674)年、天和2(1682)年、正徳元(1711)年に立てられた。

<資料2>

高札を題材にした「史料読み取り」学習（事例2）

- 1 高札場の説明・・・写真1は御所市で撮影したもの。この地域は「御所町」として地元の人々によって整備が進められている。ここは、写真2のように高札が掲示された場所である。



<写真1>



<写真2>

- 2 高札の内容を読み取る・・・写真3の高札には何が書かれているか。



<写真3>

実物又は複製品（教員が事前に実物に接し、複製品を製作すること等の工夫が必要）を教室に持ち込んで示すことで、生徒は歴史を身近に感じることができる。地域教材を用いた授業は、地域の「歴史」と教科書に書かれている「歴史」をつなぐものである。

生徒に高札の内容を読ませ、キーワードを探させる。

写真3の高札の内容

定

何事によらず、よろしからざる事等、
百姓大勢申合せ候をととうとなへ、
ととうしてしゐてねかひ事くハだつる
をこうそといひ、あるいハ申あはせ、
村方たちのき候をてうさんと申。前々
より御法度に候条右類の儀これあらハ
居むら他所にかぎらず早々そのすしの
役所へ申出へし御ほうびとして
ととうの訴人 銀百枚
こうその訴人 同断
てうさんの訴人 同断
右之通下されてその品ニより帯刀名子
も御免あるへき間たとへ一旦同類に成
るとも発言いたし候ものゝ名まへ申出
るにおゐてハその科をゆるされ御ほう
び下さるへし
一、右類訴人いたすものもなく村々
騒立候節村内のものを指押へととうに
くわゝらせす一人もさしいださゝる村
方これあらバ村役人にて重モにとり
しつめ候ものともこれあらハそれゝ
御ほうび下おかるへき者也

明和七年四月奉行

キーワード

(1) 「ととう」「こうそ」「てうさん」

「徒党、強訴、逃散」から江戸時代の百姓一揆等農民の抵抗運動の形態について説明することができる。

17世紀後半には代表越訴型一揆が増え、17世紀末になると惣百姓一揆が各地で見られるようになった。徒党は惣百姓一揆を指す。

(2) 「銀百枚」

江戸時代の通貨や貨幣経済の発達についての説明することができる。

銀貨は秤量貨幣であるので「〇〇匁」で表すべきところであるが、「百枚」というのは、江戸時代以前から用いられた恩賞用又は贈答用の単位を用いているからである。江戸時代以前からの慣習の継承により、「銀一枚」＝「銀43匁」とされ、江戸時代初期の銀と金の公定交換比率は、「銀60匁＝金1両」であったこと等を示し、「銀百枚は何両であったか」等を計算させたり、現代の通貨に換算するといくらになるか、等を生徒に調べさせたりすることも興味深い。

(3) 「明和七年四月 奉行」

明和7年は西暦1770年であり、田沼時代（1767～1786）であった。この頃の大和は、明和5（1768）年から明和6（1769）年に興福寺領から発生した一揆が10箇所拡大する等、騒然とした状況にあった。これは大和一国だけに限らないことであった。全国的に一揆が多発したため、明和7年4月に幕府は全国にこの高札を立てている。このような一揆多発の背景には、何があったのかを生徒に調べさせたり、享保の改革以来の年貢増徴政策、厳しい検見法と綿作への課税強化による農民生活の逼迫があったことを説明したりする展開が考えられる。

※「百姓一揆の禁止」を記した高札は、大和固有の事例ではないが、江戸時代の農民のくらしを具体的に理解する学習に活用でき、当時の大和の姿について調べる学習へと発展させることができる考える。

※(1)～(3)のキーワードのほか「帯刀名子」「村役人」等、この高札には歴史学習の基礎的・基本的な概念を説明できるキーワードが見られる。様々に活用できる教材と言える。

3 まとめ

17世紀から18世紀の農村の様子を概観し、農民にとってどのような時代であったか等、様々な視点から考えたことを、瓦版づくりや新聞づくり等を通して表現する。

<資料3>

1 生涯学習番組「たのしい奈良の歴史」シリーズ「中世の大和武士」を視聴し、中世の大和の姿から日本史の大きな流れを読み取る。

<高取城築城に関する内容にかかわって>

視聴覚教材「中世の大和武士」より	教科書の内容	説明を要する語
<p>○高取城のはじまりは越智氏によって高取山上に山城が築かれたことにある。</p> <p>○越智氏は春日大社に属する武士であった。</p> <p>○鎌倉幕府は各国に守護を置いたが、大和には原則として守護を置かず、興福寺の大和支配権を事実上認めていた。</p> <p>○興福寺の荘園を管理する者が武士化し、衆徒と呼ばれた。一方、春日大社に属する武士は国民と呼ばれた。</p> <p>○南北朝時代には大和国内の衆徒と国民が入り乱れて争いが続いた。</p> <p>○高取城を築いた越智氏は国民であり現在の高取町越智に居館を構えていた。</p> <p>○衆徒の筒井氏との争いに備え貝吹山城を拠点としていた。貝吹山城の詰城として、高取城が築かれた。</p>	<p>●荘園の発達と武士のおこり</p> <p>●鎌倉時代の政治のしくみ</p> <p>●将軍と御家人の関係</p> <p>●守護・地頭</p> <p>●南北朝の争乱</p> <p>●中世武士のくらし</p>	<p>○越智氏</p> <p>○山城</p> <p>○春日大社</p> <p>○興福寺</p> <p>○衆徒</p> <p>○国民</p> <p>○居館</p> <p>○筒井氏</p> <p>○貝吹山城</p> <p>○詰城</p>

◎「越智氏による高取城築城」という歴史的事象から、「権門支配から武士支配への移行期」という中世の政治の特色を読み取ることができる。



主な衆徒・国民の分布図

興福寺の僧兵

(衆徒)

「春日権現験記絵」より



国民

「春日若宮御祭絵巻」より



2 高取城について調べたことをまとめる。

<高取城築城の開始と初期の高取城>

- 高取山は奈良から吉野に通じる芋峠越えの道をおさえる位置→軍事上の要所→城を築く
- 南北朝時代…越智氏の控えの城として築城
- 戦国時代の記録
 - 永正8(1511)年、越智氏が高取城で戦う
 - 天文元(1532)年、一揆勢が高取城を攻撃
- 越智氏の分裂、衰退
 - 本城の機能が、越智(現高取町越智)から高取城に移る

<大和は織田政権の領国となる！>… 興福寺の支配から武家政権の支配へ

- 指出検地(天正8(1580)年)
 - 郡山城以外の破城
 - 国人(衆徒、国民)の肅正
- ↓
- 大和は織田政権の領国
筒井順慶の元で軍団を集結させる体制

<近世城郭に生まれ変わった高取城>

- 筒井順慶が天正12(1584)年郡山城の詰城と定める。
 - 翌年、筒井氏に代わり豊臣秀長が郡山入城
 - …筒井氏の政策継承
- ↓
- 家臣の本多氏に高取城を守らせる
- ↓ **高取城が近世城郭として整備**
- 寛永17(1640)年、植村家政が入城
(吉野地方の一揆鎮圧の拠点)